

広がる「書店在庫情報」公開

近くの書店在庫“見える化”

「目当ての本」容易に確認

多くの人に本と出会う機会を創出し、出版市場を拡大したい。そんな想いから始まった「書店在庫情報プロジェクト」。在庫情報を公開できる書店が500店を超えた。図書館関係者も賛同し、連携の輪が広がりつつある。これまでの経緯や現況について、同プロジェクト事務局の鎌垣英人氏に寄稿してもらつた。

寄稿
書店在庫情報プロ
ジエクト事務局
鎌垣 英人
2023年3月号

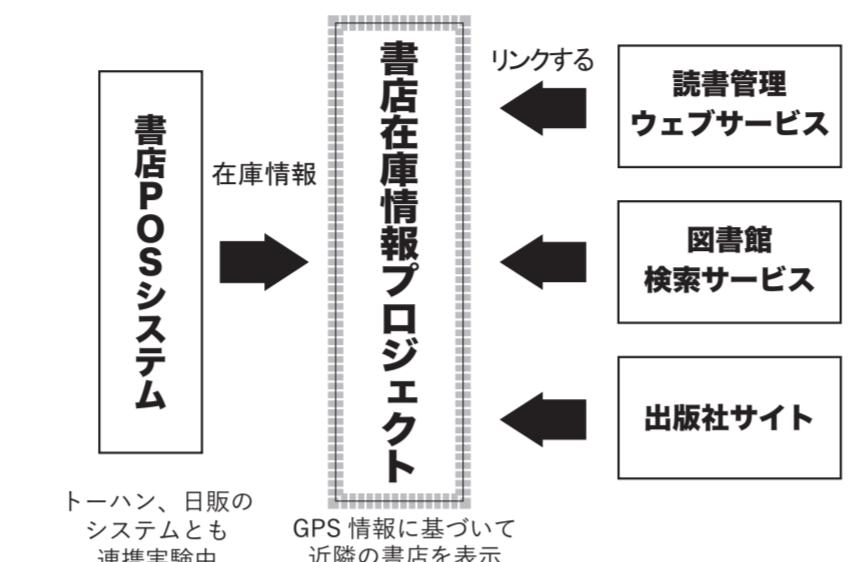
た。生
じ
た。

書店在庫情報プロジェクト カーリル、版元ドットコムが目当ての本がある
のは、出反文ヒビ革業辰 ムが中心となり、読者がギオシオンラインで容易に
カーリルかプロジェクト

ツクオフミーティングが行われ、24年6月に実証実験として実働する仕組みを公開しました。その後、議事は今年1月で30回を数えています。

書誌情報近くに「リンクボタン」 書店への導線つくる

【書店在庫情報を利用した書店と図書館の連携イメージ】



書店在庫をオーブンにして、書店への導線をつくることを主とした体として考えています。そのためのシステム連携としてトーハン、日本出版販売、光和コンピューターを協力会社として誕生させます。吉本龍社長は、「どの地域の書店でも見られますか?」といつ聞いています。それは吉本社長の思想によるところが大きい、在庫横断検索のポータルサイトをつくるものではないことを、参加団体の誰もが理解するまで少しの時間がかかりました。いまでもこのサービスを紹介する時に必ず聞かれるのが「どのサイトに行けば見られますか?」です。

トはポータルサイトが存在しません。どこに行けばみられるかという問い合わせには、「書誌情報があつて場所にそつとボタンがある位置されていますよ」とい

対しての施策は、
このボタンの横に
ある書店の在庫
が対応する書店が
何處かを検索する
機能を実現する
もので、これまで
何度も度々実験
されてきました。

が情報

は図書館で借りた読者が、書店で買ってくれるように行動変革が起きれば、という主旨の発言をしてくれています。図書

が、始まって3年目に入り、第3フェーズとして

今年は本プロジェクト

の問い合わせを管理するシステムに取り込まないと引き算ができないため、現

在日本の書店のほとんどがリアルタイムでの正確な在庫算出ができないの

です。

書店からの参加はいつでも応じます。出版社の方々も参入も大歓迎です。書籍関係者からのご意見を頂いて、在庫開示を地道に進みました。在庫情報を公開する開示を開始しました。

アフター
ざわ書
(島根)
実証実験
と、一部
ととなり、500の書店が
公開できるまでになった
ことを発表したのです。
並行して動いていた書
読み情報のそばにリンクを
貼るという活動はこれまで
で、県立長野図書館など
図書館のサイトとの連携
が4件、小学校館などの出
版社連携が30件。
また、25年「本屋大賞」
の際の候補作10点の書誌
に対し、版元ドットコム
のサイト連携を行ってい
ます。

ノールに
書店の
進めて
印してく
ます。

貼ることで対応できま
す。info@openbs.jp に
ご連絡ください。本の販
売機会を増やすためにお
役に立てるよう努めてま
いります。

申込み
おりま
や図書

「本コレ」も参入 今年は本プロジェクト
が始まつて3年目に入
り、第3フェーズとして
本稼働へ進もうとしてい
たのですが、この局面で
別の事業者からもサービ
スの立ち上げがありまし
た。カタリストが運営する
「本コレ」というアプリ
SNSで本を紹介する
書店からの参加申込を
はいつでも応じておりま
す。出版社の方々や図書
館関係者の皆様のなど
で、共鳴していただけ
方がいればぜひとも一
に進めていきたいと思
っています。





「本コレ」というアプリに書店在庫表示を実装するというものです。近くの書店の位置情報と在庫表示を一元的に表すアプリで、いわゆるポータルアプリとなっています。こうして新しいサービスも参入して、在庫開示が身近になってきた。局面は日々変化しますが、今まで書店が在庫表示をするのが当たり前となることを目指して書店在庫情報プロジェクトを進めていきたいと思います。

SNSで本を紹介する際にも、簡単にリンクを

をる

あるなら便利だ』『そのナ
イトはどこにあるの？』
という疑問は誰もがもつ
て当たり前な質問ではある

うのが答えです。私たちの目指す世界は、書店から在庫情報を発信してもらい、その情報をオーブンなものとして取り扱っていきます。あらゆるサイトで書誌情報にタッチした際、そこには「近くの書店の在庫を見る」というボタンを配置していきます。

「調べる」というボタンをつけることではないのか。そう考えて取り組み始めましたが、最初は高ハードルの前に、難しいと考えられていました。それは何故かというと、現在の書店在庫は、リアルタイムで正確な在庫情報を発信することができないところにあります。